

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

幅広い教養を身につけたい、音楽療法を深く学び将来の仕事に生かせる打に出たいという願望と  
対してのバイバイ、尚且つ京都という立地とキャンパスの雰囲気の魅力がポイント。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

1学期は一般入試を受けるつもりだったので、推薦を意識して勉強はしていなかった。ただ、英語はこの頃の  
授業や自習で大学のレベル (Pros and Cons) を使った長文読解の演習を積み、その中で多くの文法事項や単語を  
吸収できたレベルのうちに知った。授業では、複雑な文構造を理解して自分の力にすることをメインに学習し、自習では  
既出の事柄を整理していくようにした。

[夏休み]

過去問に目を通し、どの分野がどの問題が出るのか、何問出ればいいのかを把握した。センター試験の問題  
も解きやすい印象を受けたので、センター対策をメインで進めたい。その中で得られたことを推薦への演習にも  
いかすようにした。この時期の演習では、国語はとにかく数をこなして (20年分くらい) 問題の構造をつかみ、英語は  
1学期にやっていたようにすることを継続してやっていた。また、基礎のあまりの部分も固めることで実力を底上げした。

[2学期～入試直前]

問題演習の本格化させるために、復習に力を入れた。国語も英語も数をこなすことは必死でバリエーション  
解説を読むことはしていたが、同志社女子大学の入試問題 (一般は有利だが少しは推薦の場合) は  
特定の事柄を繰り返して出題しているものばかり (その事柄は長文の一部で出たり、時々別々の問題に出たり  
時もある)、出題パターンが限定されているので、問題文と解答や訳の対峙を繰り返して、照らし合わせて読んで  
理解に時間がかかるといって聞かされたことを覚えて、事柄は文構造、訳と共にノートにまとめて覚えなお  
した。英語は足らないうえで、勉強時間の多くを英語に割いた。自分では理解可能な範囲の7-9内容か  
出てきたり先生に質問をしやすくも扱っている状態を作った。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私の部活は8月上旬引退だったので、夏休みの受験勉強に本腰を入れるという状態では  
あったが、一学期中に各教科との間に勉強を進めていたのは、ふかきと大体つかんでいたことのおかげで、  
スムーズに学習を進めることができた。また、推薦入試の4日前には県内の音楽系進路希望者のための  
演奏会に出ることを決めていたため、テストは上手くはなかったが、今までにまとめてきたノート  
と復習の時間と持ち寄りの時間でもできることをやって、実力が落ちた感じはなかった。テレビやスマートフォンは  
休むときは演習から復習まで離れたので、学校や図書館で勉強した。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

志望校や大学のパンフレットに載っているデータを通して自分の位置、やるべきことを明確にしよう。  
同志社女子大学が第一志望であれば最低5年分は過去問を解いて傾向をつかんでおきたい。情報も豊富にありそれを  
上手に使いこなせば、成功は近くていっていいと思う。